

北岳バットレス 7/7 ~ 7/10

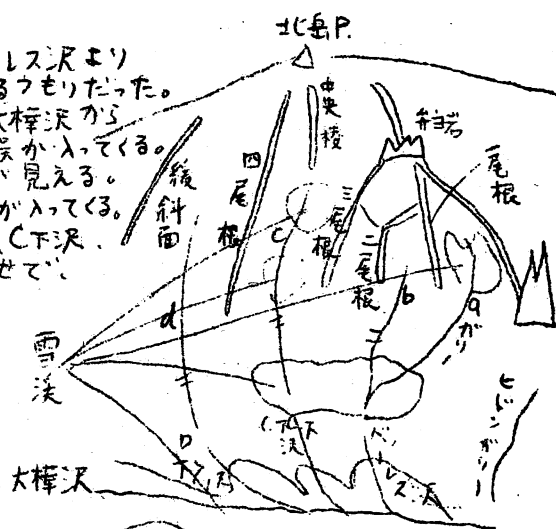
L. 師田 片山

○バットレスと言えは、穂高、剣と共に、クラシクな岩場だけと、今度ここを登攀する機会をもつことができたので、その時の記録をもとに若干感じたことも、交えながら述べてみたい。

■ 穂高の岩場に慣れ親しんできた僕等の感覚から言うと、バットレスも、いわゆる一般ルートは容易な印象を受ける。又、スケールが予想外に小さいことも否めない。岩質も違い、傾斜も緩くフクシヨクが技を羊にきく。ただ何れも東面なので、明るく開放的なのがよい。しかし、反面、残置ハーケン数は非常に少なく、ルートフラインディングに惑うことも幾度かあった。この点については、充分留意していいと思う。ともかく2日間、この広大なバットレスは僕等2人だけで静かな、のびのびとした岩を満喫できたのが、今でも鮮やかな思い出となっている。

■ アプローチについて

バットレスへのアプローチは、通例通りバットレス沢よりAカリー経由 緩傾斜帯へ、という方法を取るつもりだった。しかし、これは1日目にはもろどろだった。まず大樺沢からであるが、雪渓を登、てくとすぐ右手より右俣が入ってくる。そしてすぐ正面にはDトンガリーの雪渓が見える。これもやはり過こし更に登、てくとやがて雪渓が入ってくる。ところが地図では三尾根へのバットレス沢、C下沢、D下沢であるが、ほとんど雪渓は隣り合わせで、上部で分かれてるといった感じなのである。僕等はこれにまんまとまされC下沢へ入ってしまった。(C下沢も、バットレス沢も右岸には、踏み跡がついている。)しかし、Aカリーへは上部の雪渓をトラバースして容易に入ることができた。(Aカリーは下からソナブルに見えるクラックの入った岩壁をメドにすればいい。)大樺沢Aカリーの雪渓は、要で二手に分かれている。僕等は初日、突如右手へ行、たのであるが、これは失敗だった。結局、緩傾斜帯へ入ることができず、Ⅱ+Ⅷのフ、ンシュ交りのところを登り、思いきってトラバースした。出たのは一尾根の大テラスだったのだから、翌日はこれにこりて左手の方から行き、踏み跡に入る。後は一部岩が出てきたけど、すぐ踏み跡に導かれ容易に緩傾斜帯に出ることができた。



■ 下降路について

三尾根はかすってさえいければ、迷うことなく見つかる。僕等は一尾根登攀後、弁耆岩まで行かず、三尾根逆三角形岩壁の上をトラバースし、三尾根に入った。三尾根自体はヤブはうさぎさかルート、フラインディングさえしかりて、いかに向、向は問題ない。ただ傾斜は局部的に急なところもある。(三尾根は、又バットレス、特に四尾根、中央稜の偵察には最適だと思、う。)その五尾根Dカリー側の緩傾斜帯は、草付きでいい感じだった。僕等もこの方をよく使、た。(Dカリー岩壁、シュバルツカンテを眺めながら降りれるのもいい。)

7/7 ◎ → ① → ●

甲府(6:00) — 深沢(8:00) — 広河原(10:00) — 大樺沢=俣(11:30)

土砂崩れのため、バスは広河原まで行かず、深沢で下りて、林道を歩いて広河原へ。

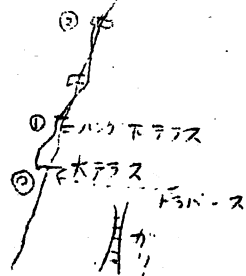
大樽沢二俣にB.Cを張ったあと、急に雨が降り出し、偵察は断行した。

7/8

○ → ① → ②
 B.C (5:00) — 第一尾根取付 (7:25) — 終了 (7:50) — 第四尾根取付 (9:10) ~ 終了 (10:35) — Dガリー 奥壁取付 (12:00) — 終了 (1:30) — コル岳P. (2:00) — B.C (3:30)

★ 第一尾根 高大ルート (ノルマル)

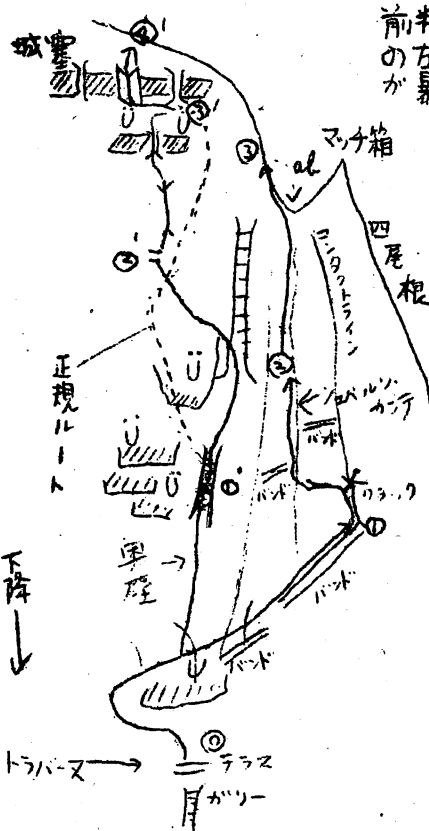
- ① ~ ② T. 片山 25m II+ ~ III 容易なリッジ
 - ② ~ ③ T. 師田 30m II+ ~ III
- ハンクには、ハーケン類は、一セウなしでも中央を走るクラックを利用すれば、容易に越えらる。後は、踏み跡のついたリッジをたどれば終了。



★ 第四尾根

- 1P目 T. 師田 15m III 花崗のクラックだけ、後は問題ない。ここからガレをまいて白い岩のクラックの下までコンテでいく。
- 2P目 T. 片山 30m II+ ~ III 白い岩のクラックは、(これはどこからでもすぐわかる) 白い岩が目立つ) 手もかきなくても登れるんじゃないのか...?
- 3P目 T. 師田 10m III+ ~ IV オコルから垂直の凹角をカラビナのかげかえで乗り越す。
- 4P目 T. 片山 25m II+ マッチ箱のPeakまでリッジをいく。マッチ箱のユルハは10mぐさのab. 横にふる。
- 5P目 T. 師田 30m III+ リッジをいく。ホールド・スタンスはめめたけど傾斜もゆるく、フクションもきく。
- 6P目 T. 片山 30m II+ ~ III

★ Dガリー 奥壁 ローレルフラッツ



前半では正規ルートの右側りを行き、後半では正規ルートの左側りを行きエライ目にあつた。ルートファインテックのミスが暴露されたのだらう。

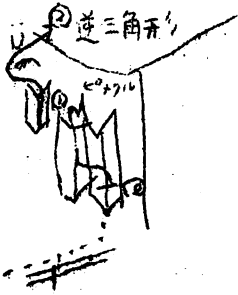
- ① ~ ②' T. 師田 40m II+ ~ III しょうもない草付がガリ
- ②' ~ ③' T. 片山 35m II+ ~ III ハンクをまいてまいた上部でトラバースしてスラブ帯へ
- ③' ~ ④' T. 師田 45m IV ~ IV+ スラブ帯のクラックを登り、チムニーを持ったハンクの下まで来る。本来あるべきはずのハンクがなかったんでその腹いせにチムニールートを取って(ハンク自体には全然、ハーケン類はない) 登り出す。クラックを腹帯に吊りて体が今入るから入るまで、ホールド・スタンスほとんどなくあつたため、クラックピッチは微妙なことで、かかるし泣が出たこともあった。(おぼろげに言えれば、変な色気は出さなかつた。10数分のたうちまわり、やと3m程のハンクがこのチムニーを抜ける。サイルは100に、たんで片山にピッチポイントを上げてもらい、城塞の基部でピッチをセウ。
- ④' ~ ⑤' T. 片山 20m IV ~ IV+ 城塞は本来なら右かたのチムニールートを取ると3つけど、前のチムニーで、さんせんじめられてたんで、チムニーとチムニーの間の凹角状にルートを取る。ところが、脆く、ハンクについてそのうえ、湿いて実にシビアだった。アツことアツこと、すべてみんなを裏目に出たよう気がする。

感想 「痛めた」片山 「エラかった」師田。

7/9 ○ → ① → ◎

B.C (4:15) — ニ尾根R2 取付 (6:45) — 終了 (7:25)
— 北岳P (8:10) — シュバルツカンテ 登攀 取付 (9:15) — 終了 (10:15)
— 中央稜取付 (11:10) — 終了 (12:35) — 北岳P (12:55) —
B.C (2:55) — 微収 (3:40) — 深沢下降点 (6:05)

★ ニ尾根 R2

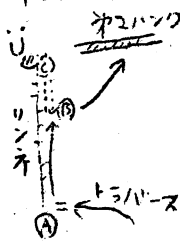


リンネに入り込み 登りすぎたため、非常に不安定なテラスで
アンカインした。
◎ — ① 下 師田 25m III+ へ IV もろいリンネ 壁から
カンテを回りこみで 隣りのリンネへ 移り、ピナクル・テラスまで。
① — ② 下 片山 35m IV へ IV+ 凹角状のところに
洞穴といふほどで、ないハンクも 左手より 越えて 逆三角
形に出で 終了。
下から見てた時は、行けるかどうか すごく 心算だったけど、
身にしてたほど のこと はない。ホールド、スタンス ほど
豊富で、ハンクも てることもあって、ピナクル 短いけど
楽しめる。ただし 非常に 脆い。

★ ナ四尾根 フランク、シュバルツカンテ (前頁の図参照)

- ① ~ ① 下 片山 35m III ハンクを左手より回りこみ、ハンクの上をトラ
バースレバントを 斜上する。カンテを回りこみ、コンタクトラインで、ピナ
クルの 間 ハーケン 1本もなく、1本打ってランニング ピナクル。(師田 回収)
- ① ~ ② 下 師田 35m III コンタクトラインの凹角を 走りクラックは、レイ
バックで 行こうと思、たすも (もす) 落ちた人で、筆化を ねじりこみで
登る。IV バックよりカンテラインに出る。バント時で 容易だった。
まあ、ここから またコンタクトラインに 戻ると、たか 5m くらい 毎にハーケン
があったので、色気を出したのが 向違いのも だった。バント ①の
までの 10m はホールド、スタンスが ひどく 豊富で、傾斜が ゆる
かったから 降りかたのもの、下るに 下れず 死ぬ 思い だった。IV+
が 最高に 快適 だが、怖かった。(片山)
- ② ~ ③ 下 片山 25m III 容易なカンテ、片山が マッチ箱の コルに
出れば、いいの に行きすぎ コルまで 5m ab で 降りた。

★ 中央稜 ルマル



- 1P日 下 師田 10m IV
片山には 雪凍の上で、ピナクルを 下ろして 登り出す。
悪い悪いと 言われると、たか 10m シュバルツカンテ ほど
へは、ホールド、スタンスも 豊富で 楽 だった。ただ
頭をハンクに 押さえて、体が 宙に 出る ので、たか
エラかったけど、スポーツマンで 登りかたは、たか 10m
2P日 下 片山 30m ① ~ ② IV A点よりリンネに 登って
登って、B点より オユハンク 帯 登るのが 正ルートと
思われたけど、片山が しまで 行、てた人で、B点まで 約 10m
ab で 下す。(シュリンク、1コすき置)
- 3P日 下 師田 30m III Bより 草付 階段 林の ところを 登り、容易にハンク
下に出る。オユハンク 帯は、たか 10m まで 登る。(アブミ 押しきり 行けた
たか 30m) ききの 悪い ハーケン は 打 てる。ハンクを 越して 右に トラバース
カンテライン へ 出る。
- 4P日 下 片山 25m IV 岩も 硬く、ホールド、スタンスも 豊富で 快適な
リッジ 登攀。

5P目 T. 師田 30m III+ リンチ"ぞい、ホールド・スタンス 手めだけと傾斜
ゆるく、フックションも手袋 丁寧にきく。

6P目 T. 片山 30m II+ ~ III

▷ マンチ箱のボルから中央稜へ向う時、通常 ア、フで降りるようになってるが
その必要ないし、しないうかがよい。なせるうセソンの位置が悪いんで、ザイル
が回4又でできないからである。僕等の時は、僕はabで下ったけど、こ
うしてもザイルが 流木をいんで 片山は 歩いて降りてきた。

以上、バトルス には信太が はあまり行く機会もない。記録もないので
少しくわしく書いてみました。

今度北条に(る)時は「冬のバトルスか、女の子を連れてお花畑だ。」
(師田)

「中央稜大ハンクルートに登ってみたい。」(片山)



中又白谷 ~ 四峰正面壁 ~ 滝谷 7/30 ~ 8/1

L. 片山, 下田.

7/30 ◎ → ① → ◎

西川さん、山本さん、師田さん、三井、下田、片山の六人で、7/30と
8/1から出発する。2Pで中又白F1の取付につき、登りだす。
F1は右岸から大きくまき、abで各峰へ降りた。
F8まで、ザイルを使わず、いける所を適当に行く。
F8は2人ずつパーティーを組んだ登る。まず左岸"ぞい"
もろい岩場を30m。次にハンクを右に逃げて、直上した。10m。
通常2P目は、滝をまたいで右岸"ぞい"に登るらしいが、水が多
くてとても無理だった。あとは奥又の池まで、スラブをどんどん登る。
池で、みんなと別れ、下田、片山は北条、新ルート取付へ向う。

★北条、新村ルート

1P目 T. 下田 40m ガリー
2P目 T. 片山 40m ガリー ハイ松テラスまで
3P目 T. 下田 30m ハンク乗越 ヒナクルテラスまで
4P目 T. 片山 30m トラバースの後カンテを回りにみ、直上。

登攀後、3、4のコルより洞沢へ下り、B、Cを設営

7/31 ①

三尾根・ドーム中央稜、クラック尾根登攀。

7/1 ①

一尾根登攀 後、B、Cを撤収、STへ帰る。

ル-トは
「日本の岩場」
といふ。

感想「天気がよくてよかった。ケッ、フェッ」下田

「けっこう充実していたと思うよ。」片山

1) 笠ヶ岳 穴毛谷沢登り

期間：76' 8月4日 ~ 8月9日

メンバー：L. 二俣 勇司, 片山 博彦, 山崎 克則

行動記録

8月4日 ①

前日までひどい雨が続いたが今日は晴れそうなのでS.T.も出発(6:05) 新中尾峠を越えて途中 穴毛谷などを見ながら槍見温泉へおる。(10:00) 笠ヶ岳登山口で昼めしを食い道標「19」をしばらく行くと黒巻沢出合に出る。13:00 岩小屋。岩小屋は広くてなかなか快適である。錫杖岳前衛エスが圧倒的に見える。昼からトカゲをすす。

8月5日

●
↓
◎
↓
●

今にも降り出しそうな空ではあったが5:00に出発。少し行くと雨が降り出し岩小屋へ帰る。7:30まで待期したのち再び出発。強く降ってくるが、かまわず進む。途中二俣がおり右俣には巻杖の所があり、二俣、片山で復察に行く。結局左俣をつめる。(これは予定の牧南沢ではなく、左俣沢であることか、あとでわかった。) ところどころ、シャワクラムなどがあるが、全く容易な沢である。9:20 沢をつめたが目的の大鞍部ではなく、ガッ。沢と反対側の斜面をトラバースしながら進むがコンパスが狂ったり、視界がきかず、うろつした。10:15 にとつやま主稜線上に出た。道など全くないヤブこきである。本峰のカルシキ所で昼食。ポツタンの上の水は、ビバークにそなえて、一滴も飲まず歩きつづける。身の丈より高いササをつかんで急斜面を、こぼうで登るのは非常につかれる。コリから左の沢を少しおって再び稜線へ向って登る。コンパスをしばらく見ながら北へ北へと進む。ハイマツとシャクナゲの物すこいヤブを越えて、17:00 ころ、グッとクリヤ谷の頭手前の一般道に出て、長かったヤブこきから解放される。手ごろなビバークサイトでビバーク。雨が降り出し、全身びしょ濡れになる。

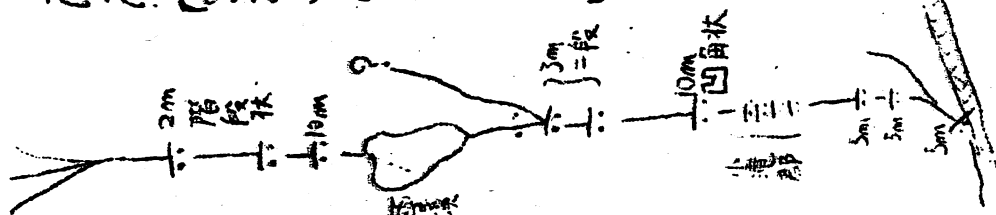
8月6日 ● 10:40出発。15分ほど歩き、のそきの岩小屋にツルトをほす。岩小屋とは名前だけで、今日も全身びしょぬれである。雨水をためてEssenをつくる。夜は雨具を着てねるが、シュラフはズブぬれで、非常に寒かった。

8月7日 ◎ やと雨もおがり 7:00出発。8:35 笠川屋にフキ、荷物をおいて笠ヶ岳山頂へ登り、記念写真をとる。11:00 杓子平へフキ降りていく。フライだけは、たまたまパーティーがいるを思って行くと、師田氏の黒部源流パーティーだった。2日も沈殿しているということであつた。夜は一緒に食べ、火をかんで酒を飲む。

8月8日 ① 6:05にアタラの離表備で7の沢に向う。7:05 7の沢出発 9:10 終了、小土の滝が連続する、なかなかおもしろい沢だった。サバなどを一斉使わなかった。後線まで登るのはしんどいので第7尾根をトバースして杓子平のB、Cに戻る。(10:30) 冷し中華を食べながら、穴毛谷を降りる。落石に注意しながら下っていく。四の沢やトナリ尾根が見えるが、奥まで行かない。新徳高温泉のすぐ前の所で道を見失い、砂助谷の所を標までつかって渡渉。新徳高のテント場にツルトをほす。温泉へ入り、酒を飲む。

8月9日 ● バスで帰るつもりだったが、土砂前山で不通。新中尾山峠を越える元気はなく、新徳高ロープウェイに乗る。10:40 終点 11:30 西徳山荘。13:20 上高地 14:00 S.T着

感想. [1.ほつりと濡りました。] 片山



7の沢概念図

片山

滝谷合流のグロブ・茅野

～ 酒沢定着

76.9.24

～ 10.1

L 二保 勇司 (L-2-III)

下田 章 (A-2-II)

9.26 茅野 学 (A-1-I)

堀地 弘 (S-1-I)

6 松本 - 上高地 - 新穂高 - 滝谷合流

7 上高地は人雑 天候よく 前穂が白川(先EII) 暑く?
バタバタで 合流の小屋まで

85 TS. - 滝谷の行 - グロブ・茅野登攀 - 北穂 南穂 T. (18:00)

9 ① 雄滝 雌滝 滑走 など 巻II EII. Fix EII だんだん 12
たしぼり? 行く. C沢の合流 奥付止? 新雪に驚き 取付II 2 からは
恐ろしく代へ

86 TS. - 新沢 B.C. 上高地 - 酒沢

10:00 12:00 10:30 16:00

昨日のグロブにて 新雪の付いた滝谷に ありきか? II EII の 2
北穂 (ボム) は どの? どの? どうせ 酒沢 まるで と ボム - E.
朝霞 (2 ゆっく) ゆっく) 出発。一学生は テントで Essen
で バタバタに たりたり 御倒着。

7 B.C. - 稜線 - 北穂 - 二保根 - B.C.

8 C沢の左俣を下る予定は 未だ 雪が 付いた 11 3 の 2 層明は
Leader は 二保根に 変更。水野の づきは おそろな 未

8 沈殿

9 → ①

3 B.C. → 5.6 の コル - D沢 - 松高 route 巻II - 稜線 - 新穂 - B.C.

4 今日 稜線 又 朝陽を 浴びて 元気に出発。松高は ボムボム と 快直。
5 2 の 北穂根を 巻く? 白出の コルで 小屋の 仕事を 手伝った
6 に 不審をとらえず。新穂 前に B.C. へ。

二保 - 松本. 下田 - 茅野 日 10:00

9/30. B.C. - 北穂. - 四屏根. - B.C.

①

日増しに紅葉がみん味を増し. 秋は「たふ」という中を 滝谷へ. 昨日の雨で雪を消え? 楽しく四屏根を登攀 (途中1ヶ所 route 不明) 二山でどう南稜を登らなく? (11月1日「た」と思いつ) B.C. へ.

10/1 B.C. - 上高地 - 松本.

縦走へ向う一年生と別れ 一路 上高地へ. 何か「サウダの国から来た娘」をFiuに教わりました. 紅葉の溜沢を後にした.

感想.

滝谷を下谷からY行し 谷木につたげで登ったと楽しく岩登りをした 後キとすく充実した山行だったと思う. 雪のつた岩の恐いことや. 陽のあたる稜で楽しく登ったこと. またうまかったテニ内での生活 よかった ㊦

秋の小山行 報告書 S.A.C.

Part 1 穂高屏風岩 9/15~9/17

1 師匠 信人 (MⅡ-1/3) 山本 章 (EⅡ-1/3) 片山 博彦 (AⅡ-2)

9/15 ○ 今日は横尾の岩小屋に行つて、更に中央カンテまで登つてしまおうと

思つたのに山本の術策にまんまとつかかり岩小屋まで、朝の3時目で通つて、5時に起きようとしたけど起きなかった。目が覚めた時、夢は非常に良かった。

上高地 11:50 ~ 横尾? 14:50. (B.C.)

9/16 ○ 6:00 出発。羽衣新道より、ルンゼ押し出しに入り、ハ高テラスより中央カンテ取り付きに着く。8:05 取り付き。

1pitch目 T師匠 V/A. 取りつきたが、リ置を忘れて登り出した人を見た。曰く「どうも登りやすいと思った」。

2pitch目 片山 インザル中のブリッシュ登り。

3pitch目 " 同じく

ルンゼより本登り2pitch コンテ状でいく。

4pitch目 山本 最後のA face. 見た自よりずっとよっぽど。

12:00 終了。右岩壁 削り始めながら、屏風の頭 総て両方から一下降。15:30 B.C 帰着。

岩小屋で一語のOABC (大概アデバウグワブ) の人と仲よく食事。あと3人2人組。SAC OB の人で OABC に入つて人が1人。仲よく食べたのです。

9/17 ①→② 6:20 BC 発。1号 穂高本谷の夜歩きで目が覚める。

ルンゼ押し出しより T4 尾根へ。

T4 尾根 Top 片山 7:45 ~ 8:30.

T4 山頂 取り付き トラバースし、鵜野ルート取りつたに合う。9:05 取り付き。

1pitch目 35m Top 師匠

2 " 10m "

10:10 全員大テラスへ集結して一休み。青白ハングの右端をがかりようを鵜野のハングに向かう。

大テラスより Top 山本に交代。35m, 10m, 35m, 20m の4pitch. 核心部だけあってなかなかだった。終了 14:30.

BC 17:30 帰着。里心がつきあした日は右岩壁をやめ、OABC の人達と一語に帰ることにした。



9/18 快晴, 今日も屏風はとで、かくとびて二いる。5人きり、26:30
岩小屋を後にする。

9:00 Bus Terminal. ビール飲み、ビール食はあば、21:00すぎTaxiに乗る。
机本に戻、てあかして裁判実習室がけつけた。まことに出席して2
たよこ、僕はおバリのせーつ? 1回分とうけました。 (カ)

Part A 明星山 日帰りの岩登り 9/26

山師田信人 片山博彦

朝一番の電車で机本を後にし、小達よりテリテリ、トボトボ行く。明星山
へは初見参、見事な道に迷いオタオタ、オッオロ、明星南壁村岸に着いたの
は11:40近くだった。

先行partyが左岩壁には2partyあったんで川原で時を待ち、アキ11:45
で下下には3人がせす11:45取りつく。

1 pitch目 T 師田 40m 左Lセ側より南壁へ回りこみAでテラスへ。こ
こで2時直以上時を待つ。先行partyの3netの人は何と50%、感心するだけ
や、は体力の衰えは歴然?

2 pitch目 T 片山 30m 飯所のハンクにまく似た外傾ハンクを越し、先
テラスへ。ここでまた時を待つ。

3 pitch目 T 師田 40m 11:45 ばいばいのオテラスへ。

4 " T 片山 25m リッジに出る。リッジをいに行くとオシマイ。16:00

PT Peak目指し(途中より左Lセ上部をトラバース、ブッシュの中をヤブ
漕いで下ると、すんぽり小達川へ出た。ホッ? 気が取れたせいか渡渉に
失敗、河にはまらた。時を待つで之をマッポをかき集めたいとてす。

帰りの電車では下の廊下行ってた藤元partyと一緒にあった。

Part B 赤沢山へ ~ ~ ? 10/9 ~ 10/11

10/9 雨のせぼつと机本を何となく気取りせず後にす子、上高地への川2の中
で屏風一ルとせへ向かう山本、瀬戸(SUNAC部員)と出会う。4人では何
となく横尾へ。遊覧小屋は人でいっぱいだった。(機尾着 17:40)

10/10 朝方、ガスが濃くて、さり流しと思っただのに、晴れてく。やが
てなく吹かきこみ、8:10 山本partyに別れを告げる。9:40 旧橋決の跡、
赤沢山を正面から横断し、針峰五槍決倒正面壁大スラハルトに向かう
10:55 取り付き、終了 13:15. ぬかしてスラハルトは何かなくしてハヤだった。

ルートは置いておいて本和して3m程落ちたのもこの時のこと、
 深く掘進の方は電不直日、北隣下降はハッセルなしなので断続的。
 奥壁のコンクリート壁残り、正面壁の頭端で最色コンクリートで掘進を
 橋渡り下階 区中薬石にたい足すから5m程 疎落ころり 約12%
 16:00. 田口、シ跡. 17:30 横尾. 隠れ小屋使えないうへ 橋渡り. 18:10

10/11 ○ 松本へ

まとめ

9/16 屏風岩 中央カニイセルルート 8:05~12:00 師田 片山

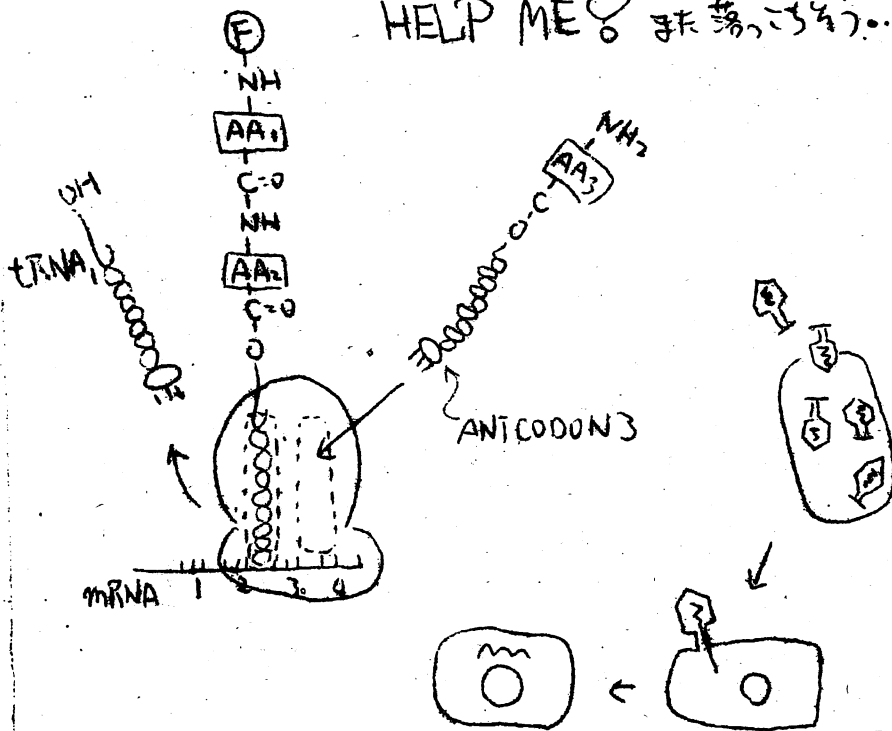
9/17 " 東壁青白ハシカ" 明島知ルート 9:05~14:30 "

9/26 明島山P17 南壁左岩枝 11:45~16:00 師田 片山
 (2.5km 暗い夕陽)

10/10 赤沢山針峰P18 橋渡り側正面壁大スラブルート
 10:55~13:15 師田 片山

//

これは細菌のリストを作る。
 HELP ME? 疎落ころり...



冬の小山行

Part 1 11ヶ岳 阿弥陀南峰～赤岳西壁主峰 1/23～1/25

L 師田信人 二保重司 (LII-3)

1/23 ○ 二日酔いでフワフワする頭を抱えながらの落ちた松本を後に
学林 9:13:50 - 立場川 - 小屋 15:25

1/24 ○ 寝坊して8:15出発、小屋裏より南峰のルネージュを下降、赤岳
に入ると、ラッセルは思、天候は悪、左尾に入り、11:45迄を遊べ、
か越し、PII基部に出る。PII、PII日どろろも広河原法側より登る。
13:55 阿弥陀 Peak 14:45 行者小屋 T.S.

1/25 ○ 7:40 T.S. 発。女三郎やだに遊んだ地点よりルネージュを下降、赤岳
に入る。ラッセルは思、天候は悪、左尾に入り、11:45迄を遊べ、
行き直ったとこより右にトラバース、主峰上に出る。9:10 取り付

1 pitch @ 二保 20m. 凹面から岩壁

2 " T 師田 20m. 岩壁

3 " T 二保 30m. 壁は11:45

凹が深く、日陰下口もこぼれ、コーンも厚い。3 pitch 目終了点
コニテ下岩壁をうと赤岳北峰直下に出た。赤岳 peak 10:40.

休憩中 師田のアセシ (H.L. ミニター) が折れてのりにつく。2人が話し
合ひ、未知の野山に下り下り決定。

行者に戻り、因襲まじり柳沢南側の道で下り、11:15 復元。赤
西壁、シエーゴ沢 危い下り 残念だが... と思いつつ

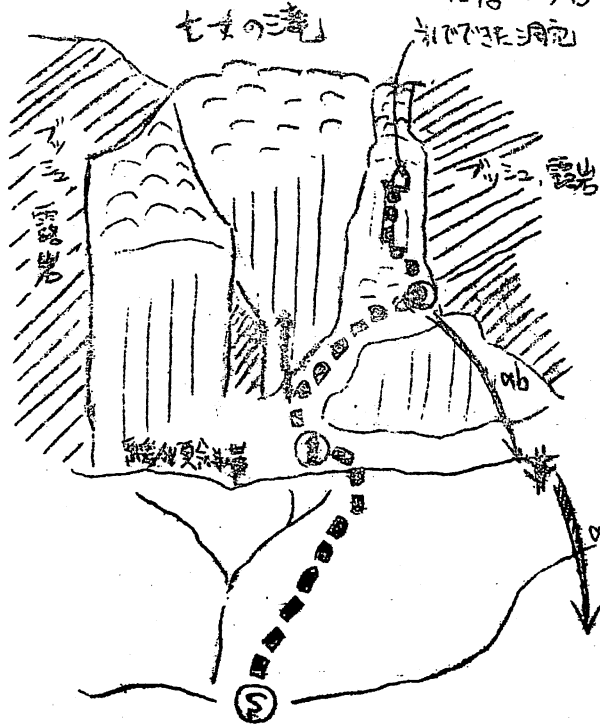
Part 2 甲斐駒ヶ岳大沢川支流「猿渡」 2/2～2/5

L 吉田秀樹 (LIV-5) 師田信人

2/2 ○ 12:00 辰野で吉田さんと落ちあひ、辰野より横井まで Bus. 9:00 林
道沿いに歩きだす。10:00 猿渡出発、本沢川に出ると林道入り、猿渡へ下降、
アガて氷結した流がアゲたのでアセシを装着、ブルーアイスがやけに
目立つ、と思つてもう13:00、四丈の流にアゲた、すこし遠くまで
思はず見上げてしまう。サイル 40m、30m の 2 pitch、T 吉田が上。流の両岸
奥部を登り、手前の岩は氷で滑りやすいため、吉田さんがスリップして
どうしようかと思つた。次にアゲた 20m くらいは流は早く、氷が
多いため、アセシを装着し、決死を志した。14:25 崖小屋状のところに
アガター、プラッツにする。

2/3 ①→② 17:25 B.P 出発。出てすぐ30mの大滝に引かかる。20m位1-
 2m位を登り、2行きつより左岸の草付まで出て、サドルを出す。どうしても
 も透の中奥部へ出るはず。サドルなくロックハーケン打ち。アザミで登り出す
 しかして花田のハーケン渡り。結局絶頂。左岸トランス、3m内ハシが
 10~20mクラスで滝が次のために束ねてし。その途中、2人と1度ずつ、
 3人に居る。だんだん上に行くにつれ、坂が滑り入りこみ、1度だけこ
 ラッせと深く滑り、そのうち南側でまた右、思ったより大の滝がそこ
 にあった。17:35 七女の滝見あげるとでピクニックにする。

2/4 ①→② 朝方、七女の滝は陽が当たった。1人1個等は今日10中、陰影のど
 に居たのだ。8:35 B.P 登。8:40 朝日付3.T 登るに



③→④ 35m
 沢のど人がまきより取つて、氷は固く
 出遣アザミ、ピッケル、アイスハンマーの
 コレクションで快適に登り

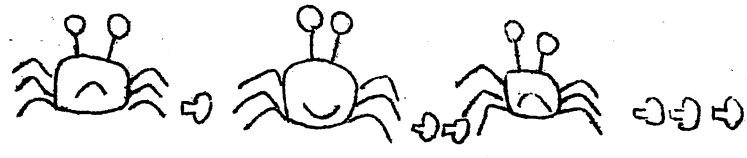
④→⑤ 30m
 頂上の氷壁を避け、左へ行き行く。
 傾斜きつて、氷が固いため、5m程。
 カッパ滝で登り、夏に花田トランス
 し、左岩壁まで。
 ここまでの2pitch 登るのに
 2時前後かかる。

⑥→⑦ 15m
 危なげなくアイスハーケンおかしみ、
 アザミで登り、ハーケンが1度抜け
 るとスリップお。15m程が
 ハシの氷壁アザミで滝を次のど
 まアハく、後10mくらいアザミが
 のた、どうもダメ、結局力不足
 として退却する。abzeilen 2回

||| は 両壁道の氷壁を示す。(アザミ必要)
 登撃時は 空中で、荷上げ

で下に下りる、13:10 朝の B.P に戻り飯にする、七女の滝、せと春かた春? と見上
 げながらボツリと思つた。13:30 登 トランス 毎味に尾根をいくつも登り
 黒戸尾根五本の小屋へ向かう。3:05 小屋着

(尚、⑥の地点より下りた七女の滝を登ったらしい痕跡があった)



考. ○ あまりの寒さに3000円が買の飯, もう一眠りして6:35 山屋七
 鐘にする. 山がモルゲンロートに燃えている. 火はまた遠くまで焼
 けた. 目の前は山並みとした川谷の裾野が広がる.

必死にかけ下り 9:10 横手 Bus stop.

僕の左手人指し指は, ぶかたろしくも2倍くらいにぶくれあがった.
 (凍傷に指先なので.)

★七丈の遠回りをやり直した, せくはなかった. 敗退の原因として
 はやはり基本的には力不足. 暗に僕は氷壁をTopで登れる自信
 がなかった. 吉田さんにTopをまかせまことにしてしまい本当に恥ずかしい
 くらいなミスリークのこと. やっぱ装備はいいの持ててお
 とダメだ. 雪はスクリューハーケとは簡単に折れる. 七丈用は使えな
 かった. ミニクがなかったら支えきれないと思う. 雪の量のこの字, 7丈
 の方がいい. 一番いいのは, 高い山といやばい山に落ちてお
 覆張ってみんないっしょで. へんまは.



おはこ ほんとはか
 せんせいも はらうよ.
 たかちゃんも はらうよ.
 しずかも はらうよ.
 みんなが 11 ぼい はらうから,
 あいご, 11 ぼい 11 ぼい たよ.
 「せんせい, がんばれ」
 「たかちゃん, がんばれ」
 「しずか, がんばれ」
 「みんな, がんばれ」



梅雨時はアジサイの花がやたらときれいなのです. (77. 6. 28 A.M. 2:00)

春山 裏銀縦走 (7ヶ所尾根 ~ 槍 ~ 横尾尾根)

Member L 二俣 勇司 (L-2-III)

下田 章 (A-2-II)

中田 茂 (L-4-VII)

1977.3.4 ~ 3.13 (春の陽と小屋のツルビ)

3/4 松本 = 下田 = くすし - ニゴリ沢合点

①→②

17:30

19:20

午後に松本を巻、2 最終のハズレくすしまで、そこから
林道をニゴリ沢合点のトンネルの中へ 非常に寒かた

3/5 7ヶ所尾根 - 鳥帽子小屋

②時②

② ツルビを予想した7ヶ所尾根は、しっかりとトレースがあり
夏道と同様に、つたからエライ 時々雪も舞い、エボシ小屋
(冬小屋)へ到着。

3/6 エボシ小屋 - 野口五郎小屋 (2時間40分)

②→① 中田氏はエボシに登らず帰ると発言。我々をどう思っているのかと
野口五郎へ。何かと2を強し、(た) 天気は良く2眺望
を最高。何と強過ぎて体が疲れているよう Schib
顔の影がテリットを為 凍傷になる 水晶までたどり
たしにとはたたた 昨日一日得たEの2 無理はたし

3/7 - 水晶小屋

②→① 今日と天気は、たたたた良い。水晶の東面がく、まじり
た東沢乗越からの東沢は、快い、2-2-E 手2. 魅惑
的、魔女のように、たたみきた。春は、たた -
水晶小屋の中、雷がたし出、今日はこちら
(FRのΩの時計たたた 発見者はFR?)

3/8 → 水晶岳 → 三保小屋

- ① 水晶の往復は問題なく3000mの空気に手こぶれのみ。三保小屋付近はとこら(い)のゴジウ落れで頭に来た

3/9 花殿

- ① 真暗な部屋の中で時間流れた人のように昼に朝食を食い、小屋、と集いはる。

3/10 → 双六小屋

- ① 西鎌尾根が非常に長く見え、双六小屋付近はとこら(い)持たされたので今日はここのみ

3/11 西鎌尾根 - 槍ヶ岳小屋 ⇔ 大槍

- ① → ② 今日はいよいよ山に来た。一日はたつた。残は長く、鎌尾根も一回アイトエかいた？ニテもaa. 無難に越え、槍の登りは夏とあも、たかばつた。社の屋敷を見送り(下りた)ながら肩の小屋へ。一段はあち、穂先へ。所々氷が、あつたけれど、ザイルの必要はなかった。素手に感じる岩に春を感じられた

3/12 横尾尾根 - Yokoo 山荘

- ① → ② 12時間行動の充実した一日。途中天狗原にツルクを落とすたば(Scn)ちゃんにはあつたものの横尾の歯に時間Fcmh (5pick) 3aカリーに着いた時にはバタバタ(た)かと終りたと思はれなかった。

3/13 上高地 - 沢度 = 鳥ヶ = 松本

- ① 横尾から上高地まで早かたはんとせん、雪の上高地というものは、一つの情緒があると思ふ。そこから沢度までは、ほんとに遠かったこと、た、春を感じた。知床を考えた。下った